



2020(令和2)年7月25日発行

発行/大阪大学医学部附属病院広報委員会(総務課)
住所/〒565-0871大阪府吹田市山田丘2-15
TEL/06-6879-5111(代表)

QRコードから本院ホームページをご覧ください



<http://www.hosp.med.osaka-u.ac.jp>

禁転載(この紙面は再生紙を使っています)

診療機能 増強 統合診療棟

再開発計画 患者包括サポートセンターも



統合診療棟 正面(イメージ)

本院が中之島から吹田へ移転してから25年以上が経過し、その間、医療ニーズや診療機能は大きく変化・発展しました。診療機能の高度化・多様化及び診療規模の増大に対して、現病院ではすでに対応が限界を迎え、建物自体が時代遅れになりつつあります。今後も最先端の研究開発を行いながら高度先進医療を提供し、将来の医療環境の変化にも柔軟に対応できる病院をめざして再開発計画の検討を進めた結果、外来・中診療棟の北側に



統合診療棟地図

来年着工、令和7年オープン

本院では日本の医療・医学発展の拠点病院として、高度先進医療を提供し続けるために平成25年度から検討を重ねた再開発計画に沿って、新しい「統合診療棟」を建設することになりました。

「統合診療棟」という名の新しい建物を建設することになりました。統合診療棟は、地上8階、地下2階の建物で、主に現在

新型コロナウイルス感染対策について



- ・正面玄関の開閉は午前8時から午後5時までとします。
 - ・本院へ入館中はマスクを着用してください。
 - ・外来受診の同伴者は極力少なくしてください。
 - ・面会については、以下のとおりよろしくお願いいたします。
- ①面会は2名まで。
 - ②病室への入室は原則として禁止です。
 - ③面会時間は午後1時から午後6時まで。
 - ④入院病棟入館時にサーモグラフィーで検温をします=写真。その際、発熱等、体調不良の症状のある方は入館をお断りすることがあります。

なお、これらの措置の変更・解除については、随時ホームページ等でお知らせします。ご理解とご協力のほど、よろしくお願いいたします。

(令和2年7月25日現在)

「腸管不全治療センター」開設

栄養管理から小腸移植まで

腸管不全の患者さんに安心してチーム医療(治療・療養)を受けていただける「腸管不全治療センター」が4月に開設されました。腸管不全は、腸から栄養や水分を吸収する機能が、先天的あるいは後天的に障害された状態のことです。受診の対象となるのは、主に「短腸症」と「腸管運動機能不全」の患者さんです。

短腸症は、小腸の大量切除に伴い吸収できない状態です。栄養管理が必要となり、多くの患者さんが中心静脈栄養(カテーテルによる栄養供給)に依存しています。腸管運動機能不全は、腸の閉塞がないにもかかわらず腸閉塞のような症状が起る疾患で、食事による栄養摂取が十分でないため、やはり中心静脈栄養に依存しています。

腸管不全の患者さんに安心してチーム医療(治療・療養)を受けていただける「腸管不全治療センター」が4月に開設されました。腸管不全は、腸から栄養や水分を吸収する機能が、先天的あるいは後天的に障害された状態のことです。受診の対象となるのは、主に「短腸症」と「腸管運動機能不全」の患者さんです。

治療法やホルモン療法など最新治療による残存腸管の機能回復・維持をめざし、慢性期には地域と連携した在宅医療への移行をサポートします。また本院は小腸移植認定施設でもあり、重症の場合は最終的な治療として小腸移植の適応も考慮します。腸管不全に対するこのような段階的・集学的な一連の治療プログラムは「腸管リハビリテーション」と総称され、合併症の回避やQOL(生活の質)の向上なども目的としています。

本院は従来から、中心静脈栄養や栄養管理における先駆的な実績があり、当センターを構成するスタッフも、医師、歯科医師、看護師、薬剤師、管理栄養士、ソーシャルワーカー、理学療法士など、多職種が連携する腸管不全のチーム医療は、日本ではいまだ

限られた施設でしか実践されていません。当センターに患者さんを紹介していただくことで、腸管リハビリテーションがより広い地域へ普及されることをめざします。また今後、各地の小腸移植認定医療機関とネットワークを構築し、腸管不全の患者さんを、それぞれの地域で適切に診療できる体制を整えていきたいと考えています。

当センターでは、原因疾患の急性期治療に始まり、栄養



製剤室内で中心静脈栄養製剤の無菌調製をする薬剤師

栄養指導をする管理栄養士

<http://www.pedsurg.med.osaka-u.ac.jp/icare/index.html>

セルフケアを指導

2月 リンパ浮腫看護外来を開設



リンパ浮腫は、リンパ液の流れが滞ることによって腕や足などのむくみで、患者さん自身が日々の暮らしの中で永続的にケアを行っていくことが重要です。

2月にスタートしたリンパ浮腫看護外来は、専任の看護師(リンパ浮腫療法士、リンパ浮腫セラピスト)が、弾性着衣(スリーブやストッキングなど)による圧迫療法やセルフマッサージ、スキンケアなどの指導を行っています(看護師によるマッサージは新型コロナウイルス感染症対策のため現在保留中)。浮腫症状の改善、運動機能やQOL(生活の質)の向上、感染予防などが目的で、本院で手術をされた患者さんだけでなく、他院で手術をされた方や、手術歴のない原発性リンパ浮腫の患者さんも対象と

しています。重たさや浮腫のつらさに悩んでおられる患者さんが、ストレスを感じずにセルフケアを継続できるよう、浮腫の状態やライフスタイルなどの現実的な問題について一緒に考えながら、指導や助言を行っています。リンパ浮腫看護外来は形成外科の診療と連携していますので、形成外科リンパ浮腫外来を介して受診していただくこととなります。また、現在リンパ浮腫看護外来は自費診療となっており、保険診療の診察や検査など同日の受診や入院中の受診はできませんのでご注意ください。

診療科長等紹介



● 乳腺・内分泌外科長

しまづ けんぞう
島津 研三

このたび乳腺・内分泌外科長を拝命しました。乳腺・内分泌外科は乳がんを中心とした乳腺疾患と、手術対象になる甲状腺がん、バセドウ病、甲状腺良性腫瘍、および原発性副甲状腺機能亢進症に対する診療を行っています。特に乳がんは女性が罹患する最も多いがんです。形成外科と連携しての同時乳房再建手術や、センチネルリンパ節生検などの低侵襲手術、最先端の薬物療法を駆使した、患者さんにやさしく、根治性の高い治療をめざした診療を行っています。多くの診療科と連携し、患者さんの安心できる最高の医療を届けることができるよう、スタッフ一同で努力してまいりますので、どうぞよろしくお願いいたします。(令和2年5月1日就任)



● 卒後教育開発センター長

わたべ けんじ
渡部 健二

このたび卒後教育開発センター長を拝命しました。卒後教育開発センターは免許を取得した医師の初期研修から専門医育成まで一貫した教育体制を構築しています。初期研修は内科、救急部門、地域医療、外科、麻酔科、小児科、産科・婦人科、精神科を必修とし、基礎医学研究者を養成する役割も果たしています。専門医育成は基幹となる診療科と細分化された専門領域の専門医取得を目標としています。大学院進学を奨励し、高度な研究能力を兼ね備えた指導的立場に立つ医師への成長を促します。ご支援のほどよろしくお願いいたします。(令和2年5月1日就任)

消化器全般の病気に対応

消化器内科

消化器内科は食道、胃、小腸、大腸といった消化管と、肝臓、胆のう、すい臓の病気を診る診療科です。患者さんが非常に多く、病気の初期から中期、進行期まで責任を持って治療に取り組んでいます。日本人に多い病気であるが

地域の基幹病院と連携

んは、消化器系がそのうちの約半分を占めます。もし食道や胃、大腸などに初期の病気が見つかったら、内視鏡を使って切除する内視鏡的粘膜下層剥離術(ESD)を行います。もう少し進行して外科手術ができない場合は、抗がん剤治療、放射線治療などを受けていただくこととなります。個々の患者さんの診療方針は、さまざまな診療科のスタッフが集まり、カンファレンスを開いて検討しています。肝臓がんは、小さい場合はラジオ波焼灼療法(RFA)で内科的に治療し、もう少し進行してくると肝動脈塞栓術(TACE)や抗がん剤で治療します。医療の進歩により早く見つけて完全に治せる例が多くなりましたが、肝炎や肝硬変からがんになった場合は比較的高い確率で次のがんが出てくるため、長く病気を付き合うこととなります。すい臓がんは早期発見が難しい病気ですが、最近では超音波内視鏡検査(EUS)と言って、内視鏡の先端に付けた超



音波装置ですい臓を近くから見る検査法があります。EUSをしながら針で組織を取る超音波内視鏡下穿刺吸引術(EUS-FNA)という方法も開発されました。手術できる早期のすい臓がんを見つけることが目標ですが、たとえ手術ができなくても抗がん剤の選択肢が増えるなど、治療は以前より改善されてきました。もちろん、診療する病気はがんだけではなく、潰瘍性大腸炎などの炎症性腸疾患は患者さんも多く、治療が進歩している分野の一つです。たくさんの抗体医薬や分子標的薬が開発され、その患者さんごとの薬を使うのが良いかの判断が必要で専門性が高い治療となっています。ウイルス肝炎は抗ウイルス薬の開発で、根治あるいはうまくコントロールできる時代になりました。しかし、感染症が制御できた後も、肝硬変にまつわる合併症や肝がんの発生に注意する必要があります。また、最近では、脂肪肝炎と呼ばれる生活習慣に根差した肝

炎が急増しており、積極的に診療しています。本院だけでは病床数に限りがありますが、当科は大阪府や阪神間の基幹病院と活発に

人材交流を行い、患者さんが適切な病院で治療を受けられるような体制作りや、医療・研究のレベル向上に努めています。

が不足した場合は、臨時請求を受け付けることで補充を行い、在庫切れの無いよう注意を払っています。現在、依然として「新型コロナウイルス感染症」の拡大が懸念されていますが、この影響により全国的に不足した手指消毒剤や、サージカルマスクなどの個人防護具(PPE)もサプライセンターで管理しています。本院は災害拠点病院の指定を受けているため、これらは日頃より十分な備蓄・在庫を確保していますが、それでも大きな影響を受け、供給に制限をかけることになりました。特に、サージカルマスクは看護部や感染制御部と相談して各部署への配付量を決め、その都度必要数を届けることになりました。また、緊急的に本院で独自に製作したガウンやフェイスシールドなどの防護具もサプライセンターで管理しており、個人防護具の在庫不足が起きないよう毎日細心の注意を払っています。

サプライセンター

消耗品約400種の在庫管理

快適な入院生活の支援



病床数が1000床を超える本院では、日々使われる消耗品の数はとても多くなり、その多くの消耗品の数量を把握し、患者さんへ快適な入院環境を提供するため、不足することがないように常に補充しているのがサプライセンターです。

サプライセンターで管理している消耗品は約400種類にのぼり、ほとんどが滅菌の必要がないものです。院内環境を清潔に保つための清掃関連用具、患者さんの身体を拭

くタオル類、検査用の尿コップ、ペーパータオル、医療機器の電池など、患者さんが病院内で目にするさまざまな消耗品や、診察室やナースステーションで必要な文房具等を管理しています。サプライセンターでは担当者ごと回廊各部署を回り、定数チェックシートにより消耗品の数量を把握し、それをもとに補充品を各部署のコンテナに入れてセンターから配送しています。また、短期間の需要増加により各部署の在庫

身近な日用品から感染防止のための物品に至るまで、幅広い消耗品の適切な管理によって、サプライセンターは病院を縁の下で支えています。

PHOTO ホスピタルミニ・ニュース TOPICS

永年ボランティアへの感謝状贈呈式

11月15日



昨年11月15日、永年に渡るボランティア活動により本院の患者サービスに貢献いただいている11名の方に対し、感謝の意を表し、感謝状を贈呈しました。病院ボランティア「ふれ愛」は平成8年11月に活動を開始しました。正面玄関、入退院センターなどでの院内の案内、3階図書コーナーと小児病棟での移動図書の運営、病棟作業着のソーイングなど、病院内のさまざまな活動を通して本院の患者サービスの向上に貢献いただきました。ボランティアさんの心優しい言葉や対応は、患者さんを和ませ、病院を明るく照らしてくださっています。これからもよろしくをお願いします。

看護師特定行為研修の開講式

4月15日



「看護師特定行為研修」の開講式が4月15日に挙行されました。第1期生となる3名の看護師は、約1年間に渡って研修を受講し、専門性の高い病態判断と迅速な対処につながる知識と技術を身につけます。修了者には、患者さんの安心と安全を高める役割が期待されています。

おすすめ御膳の一品

焼き魚の黒酢あんかけ



レシピをご紹介します

●うま味と酸味で味わいしっかり減塩レシピとなりますので、ご家庭でもぜひお試しください。

●材料(2人分)

- お好みの魚2切れ(1切れ80g程度)
- おろしニンニク 小さじ1/2
- 食塩……………少々
- こしょう……………少々
- ★ニラ……………20g(1/4束)
- ★タマネギ……………40g(中1/4個)
- ★ニンジン……………20g(小1/2本)
- ★シメジ……………30g(1/3パック)
- サラダ油……………小さじ1

黒酢あん

- 水……………60CC
- 濃口しょうゆ……………小さじ1
- みりん……………小さじ1
- ショウガ汁……………小さじ1
- 黒酢……………小さじ3
- 砂糖……………小さじ1
- オイスターソース……………少々
- 鶏ガラスープの素……………ひとつまみ
- ゴマ油……………小さじ1
- かたくり粉……………小さじ1(水で溶く)

●作り方

- ①魚に調味料(●)で下味をつけ、両面を焼く。
- ②野菜類(★)をサラダ油で炒める。
- ③②に、合わせた黒酢あんの下味料を加え、ひと煮立ちしたら水溶き片栗粉でとろみをつける。
- ④①を皿に盛り、③をかける。

- 魚の下味は塩を使わず、ニンニクだけでも、しっかりと味がつきます。
- お好みで、黒酢あんはニンニクや豆板醤(トウバンジャン)を加えると、ピリッとしたアクセントになります。
- 黒酢は、米酢、穀物酢など他の酢でも代用できます。
- お好きな野菜やきのこで作ってみてください。

越村看護部長おすすめ御膳

初夏の和風御膳

メニュー

- ・焼き魚の黒酢あんかけ
- ・レンコンまんじゅう
- ・おろし和え
- ・エビご飯
- ・デザート



6月25日に「看護部長おすすめ～初夏の和風御膳～」をご提供しました。越村利恵看護部長と打ち合わせを行い、『優しさを感じられる和食』をコンセプトに試作を重ねました。

焼き魚の黒酢あんかけは、イサキやハモといった旬の魚を使い、そして本院の病院食では初めて黒酢を用いて、さっぱりとした風味に仕上げました。また、上品な味のレンコンまんじゅう、優しい色合いのエビご飯などをお楽しみいただきました。デザートは毎回楽しみにされている方も多く、6月にぴったりの梅の実

やアジサイをイメージしたゼリーも大好評でした。

台紙やカードは、季節の花であるアジサイを用いて、入院中でも季節を感じられるように工夫しました。患者さんからは、「盛り付けや味が料亭の食事のようで良かった」「術後であまり食べられなかったけど、今回が一番食べられた」「治療の励みになった」など、うれしい感想をいただきました。

今回は8月に病院長おすすめ御膳を予定しています。さらにおいしかったと喜んでいただける病院食を今後も提供していきたいと思っております。